
バカとテストと召喚獣

黒龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣

【Nコード】

N4331Z

【作者名】

黒龍

【あらすじ】

天才・努力家の頂点にあるAクラス。そんなAクラスの代表になった黒崎明。FクラスやCクラスとの試験召喚戦争の時彼の真の才能が開花する。

プロローグ

文月学園校門

「西村先生、おはようございます」

「おはよう、黒崎」

学校に行く和生活指導の西村先生が門の中で立っていた。西村先生は一部の生徒から『鉄人』と呼ばれていてその理由が趣味のトリアスロンからだ。

「ほれ、試験の結果だ」

「どうも」

俺は西村先生から封筒を貰い中身を確認した。中には紙が一枚入っ
っていてこう示されている。

『黒崎 明 Aクラス（代表）』

「当然と言えば当然の結果だな」

「そんなことないです。これも西村先生達の指導のおかげです」

「お前のその心意気の1%でもあのバカ共になればな」

「吉井明久と坂本雄二ですか」

「知っていたか」

「知っているも何も、一人は学園初の観察処分者。もう一人は昔神童とよばれた不良。毎日飽きずに暴れていれば嫌でも名前を覚えますよ」

その後、俺はAクラスの教室に向った。

主人公紹介

黒崎 明 17歳

身長 177cm

体重 68kg

趣味 音楽・映画鑑賞 プログラミング 読書（歴史もののみ）

得意科目 数学 日本史 世界史 古典

苦手科目 英語 現国

容姿 黒髪で短髪。吉井玲を男して髪をツンツンにした感じ。休日とかはメガネを掛けている。一人称俺

頼まれ事には『無理』と答えられる派であるが、あるていどなんでもできるのでよっぽどじゃない限り断らない。自分が認めたくもしくは仲良くなった人には優しいがそれ以外のは厳しい。だから、明久や雄二、Fクラスのメンバーは嫌いである。

召喚獣

黒のジーパンに黒のノースリーブ。F eのアチャー（黒）の格好。

武器 夫婦剣 干将・莫耶（理数系） 日本刀（文系）

腕輪 雷光の腕輪 20点を使って超電磁砲レールガンを発射する。

Aクラス（前書き）

問題

『調理の為に鍋を製作する際、重量の軽いマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を挙げなさい』

姫路瑞希

『問題点：マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるという点。』

合金例：ジェラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っ掛かりませんでしたね。

黒崎明

『合金例：ステンレス鋼

なおジェラルミンの場合水、特に海水に対する耐食性に問題があるため不適切である。』

教師のコメント

さすがですね。ジェラルミンと書いても丸にしているので黒崎君には+1点追加しときます。

木下秀吉

『例：鉄』

教師のコメント

みごとに引っ掛かりましたね。問題を最後まで読みましよう

吉井明久

『ガンダニウム合金』

教師のコメント

先生もガンダムWは好きですよ。

Aクラス

） 明 ）

「おおくくすげえくく」

西村先生と別れたあと、俺はAクラスへと向った。さすがAクラスだけあって教室の中は全て最新のものばかり。ノートパソコンに個人エアコン、冷蔵庫。そして教卓の後ろには大型プラズマディスプレイとは恐れ入ったな。

「それで、俺の席は……」

自分の席を探してみると中央の前から三列目の場所にありなかなか良席だった。机の下に鞆を置きパソコンを立ち上げて作業開始。

・
・
・

「あれ???アッキー」

プログラミングをしていると後ろから聞き覚えのある声が聞こえたので作業をやめて振り向いてみいてみるとうすい緑色をしたショートカットの女の子がいた。

「おはよう、工藤」

「おはよう。アッキーもAクラスなんだ」

「ついでに代表だ」

「そうなんだあ〜。それで、何してるの??もしかして、言ってくれたらボクが実技してあげるのに」

「何を勘違いしてるんだ。これは自己紹介のときに皆に書いてもらおうとしているプログラミングだ」

こいつは工藤愛子。去年の終わりごろに転校してきた。たまたま俺の隣に座ったため先生が面倒を見てやれと言われたから色々話しているうちに仲良くなった。俺の数少ない友達の一人だ。

「相変わらずすごいね」

「そんなことはないぞ。これなんて簡単なもんだ。春休みの間はRPGゲームを作ったが、そっちの方がこれの何倍も難しいぞ。戦い方からストーリーまですべて一人で作ったから・・・」

「も、もう。いいよ」

「そうか。よかつたらそのゲームのソフトがこれだからやってみてくれないか??第三者の感想と聞きたいし」

「いいよ。アッキーが作ったゲームだからハズレがないから」

工藤は俺からソフトを受け取ると鞆の中に入れチャイムがなるまで他愛も無い話を続けた。もちろんプログラミングは終わらせた。

「皆さん進級おめでとうございます。このAクラスを担当します高橋洋子です。何か設備に不備がありましたら言ってください。申請しますので・・・無いようですね。なら、クラス代表の黒崎君前に」

「はい」

ざわざわ

クラス中からざわめき声が聞こえる。それもそうか、去年はずっと霧島翔子がトツプだったからな。

「クラス代表の黒崎明だ。とりあえず皆にはこれをやってみらう」
さつき作った自己紹介のデータを全員のパソコンに送る。

「これは見ての通り紹介書だ。そこに自分のプロフィールを書いて自己紹介してくれ。これは皆の得意科目と苦手科目を知るためだからいやなら書かなくていい」

俺がそう言うと皆カタカタとプロフィールを書いっていった。

「すみません、高橋先生。勝手なことをして」

「別にいいですよ。皆さんの自己紹介はしてもらって予定でしたし、代表の貴方が必要と思ってやったのでしたら私からなにも言いません。その代わり確りと皆さんをまとめるのですよ」

「はい」

自己紹介(前書き)

問題 以下の意味を持つことわざを答えなさい

- 『(1) 得意な事でも失敗してしまうこと』
- 『(2) 悪いことがあって上にさらに悪い事がおきる喩え』

姫路瑞希

- 『(1) 弘法も筆の誤り』
- 『(2) 泣きつ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』。(2)なら『踏んだり蹴ったり』や『弱り目に祟り目』などがあります。

黒崎明

- 『(1) 上手の手から水が漏る』
- 『(2) 傷口に塩を塗る』 コレしか思い浮かびませんでした。

教師のコメント

どちらも正解です。これが思い浮かんだだけでもすごいですよ。

土屋康太

『弘法の川流れ』

教師のコメント

シユールな光景ですね

吉井明久

『(2)泣きつ面に蹴り。もしくは、傷口に塩を塗りたくる』

教師のコメント

あなたは鬼ですか。

自己紹介

） 愛子 ）

「皆出来たみたいだから廊下側から自己紹介よろしく」

アッキーの言葉を聞いて廊下側の子から紹介が始まった。プロフィールが前にある大型プラズマディスプレイに映し出されて得意科目や苦手科目、特技や部活などさまざま紹介があった。そして次がボクの番。

「ボクは工藤愛子。水泳部に所属にしています。得意科目は保険体育。よろしくね」

アッキーに向けてウィンクするとアッキーは小さく溜息を吐いた。アッキー酷いな。

） 優子 ）

「皆出来たみたいだから廊下側から自己紹介よろしく」

代表の黒崎君が指示を出していく。まさか霧島さんが代表じゃないなんて以外だったけど彼ならこのクラスを任せられる。

「木下優子です。得意科目は現国で苦手科目はありません。Fク

ラスに弟がいます。一年間よろしくお願いします」

） 利光 ）

「皆出来たみたいだから廊下側から自己紹介よろしく」

まさか霧島さんが代表じゃないなんて。去年次席の姫路さんもAクラスにいないし。本当どしたんだろう。けど、来年は僕が主席を狙うけど。

「久保利光です。得意科目と苦手科目はありません。どうぞよろしく」

） 明 ）

「……です」

最後の人が終わり俺の紹介だ。

「最後は俺だ。黒崎明。得意科目は数字、日本史、世界史、古典だ。苦手科目は英語、現国だ。俺はこのクラスを楽しくしたいからもし何か悩みがあったら言ってくれ。できるだけ解決しやいし、他クラスと何かあればそのクラス代表に掛け合って解決する。だから、皆の一年俺に任せてくれ」

パチパチパチ

俺の紹介＋挨拶に皆から拍手が鳴る。これで皆に認められた。

「それで、頼みがあるのだけど」

『???』

「副代表に木下さんと久保君にしてもらっ」

「私ノ僕に??」

「二人には俺のサポートと召喚戦争の時の各グループのリーダーやってもらう。それと木下さんには女の子の悩みとか聞いて欲しいんだ。男の俺だと言にくいこととかあるはずだし」

「私は構わないわよ」

「僕をいいそ」

「それじゃ決定で。工藤も俺の手伝いしてもらっから」

「いいけど。部活がある日はだめだからね」

「その辺は分かっているつもりだ」

こうして俺の初仕事は成功で終わった。その後も皆が笑いながらいろいろな事を決めて行った。これから楽しい学園生活が始まると思っていた頃が懐かしい。まさか、こんなに早く戦争が始めるとは俺もその時は思ってもいなかったから。

Aクラス紹介（前書き）

工藤達のプロフィールです。下手ですけど見てください

Aクラス紹介

名前 工藤愛子

得意科目 保健体育

苦手科目 特に無いよ

趣味 アッキーとおしゃべり アッキーのオリジナルゲームをすること

その他 水泳部所属

スリーサイズは・・・アッキーに怒られるからひ・み・つ

名前 木下優子

得意科目 現国

苦手科目 物理

趣味 読書()

その他 Fクラスに双子の弟がいます。一年かよろしくお願いします。

名前 霧島翔子

得意科目 なし

苦手科目 んし

趣味 観察

その他 よろしく

名前 久保利光

得意科目 文系

苦手科目 特にありません

趣味 勉強

その他 一年か宜しく。

自習（前書き）

問題 次の英文を訳しなさい

『 This is the bookshelf that my grandmother had used regularly. 』

姫路瑞希・木下優子

『 これは私の祖母が愛用した本棚です 』

教師のコメント

正解です。姫路さんと木下さんはちゃんと勉強してますね。先生はうれしいです。

土屋康太

『 これは 』

教師のコメント

Thisだけ訳せたのですね

吉井明久

『 #!%\$ 』

教師のコメント

日本語をお願いします。

自習

） 明 ）

カキカキカキ・・・

どうも、黒崎明だ。今俺達は自習のため出されたプリントをやっている。なぜ、自習かと言うと。FクラスがDクラスに試験召喚戦争を仕掛けたからだ。まさか新学年初日に戦争をするとはFクラスのやることはさっぱりだ。ついでに出されたプリントは日本史と世界史だ。だから

「アッキー。この問題なんだけど紀元前202年は何があつたの??」

「前漢成立だ。ついでに後漢の間には新の時代が入る」

「さすがアッキー。ありがとね」

「別にいいさ」

「代表。三国時代は魏、呉、蜀の戦いでいいわよね??」

「合ってる。もっと詳しく言うと後漢王朝の腐敗とともに民衆の反乱や賊の強奪が活性化し各太守が戦力と功績を求め国全体を戦いの場に巻き込んだ時代。その中で魏、呉、蜀が天下を三分する力と領土をてにいれたから三国時代と呼ばれていると書いたらほぼ満点だろう」

「ありがとう」

「いいさ。ついでに最近になって曹操の墓が見つかったと中国で大騒ぎになっている」

「そ、そうなんだ」

「ははは。アッキーの将来の夢は考古学者だね」

「それもいいな」

とまあ、皆が俺に色々聞いてくる。聞かれたら答えるしそれ以上に詳しく聞かれても答えられる自信はあるから
工藤に言ったこともいいかもしれない。

・
・
・
・
・

「そういえば、どうしてFクラスはDクラスに宣戦布告したんだろっ?」

全員がプリントを終わらせた時に工藤がFクラスとDクラスの戦争理由を考え出した。

「ただ、騒ぎたいだけでしょ」

「そうかな。アッキーはどう思う??優子と同じ意見??」

「おそらく狙いはAクラスの設備だろう」

「私達に勝つための足がけてこと」

「ああ。おそらくFクラスの代表は坂本雄二だろ。Dに勝ったらBへ宣戦布告して最後にここへ宣戦布告してくるだろう」

「もし、Bクラスが断ったら」

「学園のルールで下のクラスから宣戦布告されたら上のクラスは承認しなけえばならない。まあ、大抵のクラスは設備をこえれ以上落ちたくないから早々と宣戦布告はしないがな」

「それで、もし勝って来たらどうやって戦うのかしら代表」

「簡単さ。向こうはBクラスに勝って俺達は強いって思い込んでる。なら、その思いを打ち砕けんばいい」

「どうゆうこと??」

「来た部隊の部隊長を一瞬で持ち点を0にする」

俺の言葉に聞いてた工藤と木下が目を大きく開けて見てくる。

「俺の腕輪の能力を使えば一瞬で終わる」

「……って。代表が前線に出てどうするのよ!!」

「どこがおかしい。皆が戦っているのに俺だけ安全な後方で待っているなんて俺のプライドが許さん!!それに俺が部隊長を倒したら皆の士気が上がる」

「だからって代表が優子。アッキーは一度言ったら中々折れないから諦めた方がいいよ……」

「頼む、優子」

「!!??」

「良かった優子。アッキー、優子の事信頼してくれたよ」

工藤の一言で木下の顔がさらに紅くなっていく。確かにこの学園に入ってから名前を呼んだのは工藤しかいなかったな。あれ??俺ってまさか工藤以外信頼出来る友達いなかったのか。なんか、目から暖かいものが……

「認めてくれたのよね／＼」

「じゃないと名前で呼ばない」

「これから名前なんだよね」

「さあな。工藤だって今は姓で呼んでるぞ」

「これからずっと名前で呼びなさい!!」

「

「それじゃ、ボクも」

「それは時と場合に」「アッキー／＼代表」「……だったら木下も名前と呼べ!!」

「ど、どうして私だけ／＼」

「愛子はニツクネームだし。それに」

「それに??」

「俺だけ名前じゃなくて代表だなんて嫌だからな!!」

「わ、わかつたわよ。あ、明。これでいいのでしょう」

「上出来だ、優子」

「／／／／／」

優子の顔が紅くなっていく。ん??なんで男子の皆がコンパスや
カッターナイフなんか持つてるんだ。危ないだろう。そしてなんで
俺の方に来る??

『リア充に制裁を!!』

お前らはFFF団か!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4331z/>

バカとテストと召喚獣

2011年12月24日23時49分発行